

所属
委員会

◆文教警察委員会

教育委員会及び公安委員会の所管に属する事項
並びに総務部所管の教育に関する事項

◆若者・女性に選ばれる地域社会づくり特別委員会

- (1)社会減の状況と県の取組・課題
- (2)若者・女性が集まる魅力ある地域社会づくり
- (3)若者・女性が活躍できる地域産業の育成・創出
- (4)若者・女性が暮らしやすいデジタルを活用した地域社会づくり

委員会活動



委員会質問内容

9月・11月
定例会

令和7年9月／教育関係の質問

- 専門高校における外部指導者の活用について
- 高校生の就職活動における1人1社制の見直しについて
- 夏休み明けの児童生徒へのサポートについて
- 保護者等への対応における専門人材の活用について

令和7年9月／警察関係の質問

- 検視官の育成及びメンタルケアについて

令和7年11月／教育関係の質問

- 公立高校入学者WEB出願システム導入事業について
- 高校生の自動車学校への早期入校について

令和7年11月／警察関係の質問

- 通信指令業務従事者の技術向上等に向けた取組について
- 110番映像通報システムの活用の成果について

令和7年度 文教警察委員会 県外調査視察(東京・神奈川)

令和7年
12月17日 水
～19日 金

12月17日 水

① 株式会社ラック

調査
項目 産学官の連携によるサイバー
犯罪対策の取組等について



12月18日 木

② 大田区立御園中学校分教室 みらい学園中部

調査
項目 学びの多様化学校における
不登校対策等の取組について



12月18日 金

③ 神奈川大学

調査
項目 高大連携の推進に係る
取組について



12月19日 金

④ 神奈川県警察本部

調査
項目 県民の交通安全意識向上に向けた
公式アプリの運用等について



もっと詳しく
Pick Up!

園児の子たちのみならず
子供たちを見守る先生方からも
好評とのことでした!

大型サンシェード



学校法人四恩学園 幼保連携型認定こども園
四恩幼稚園(下松市)

外で遊べる!



問 外遊びの充実のための 大型サンシェード等による日陰づくりの推進について

近年、夏の暑さが年々厳しさを増す中で、山口県においても子供たちの健全な発達につながる外遊びの確保と安全対策としての日陰づくりが必要な取組と考えます。子供たちが安心して遊べる環境づくりが県内全域に広がっていくよう、遊び場における日陰づくりを推進していただきたいと思います。県のご所見をお伺いします。

暑さで子供の
外遊びができない



答 健康福祉部長

外遊びを含め、子どもたちの遊びは、心身の健やかな発達を促し、社会性や創造性を育むなど、健全育成を図る上で、重要な役割を担っているものと考えています。しかしながら、近年の気候変動の影響等により、熱中症による健康被害が数多く報告されていることから、安心して遊べる環境づくりは、暑さ対策等、安全面に考慮しながら進める必要があります。

このため、県が管理する山口きらら博記念公園では、大型複合遊具広場「きららんど」において、日除け施設等を整備したところであり、こうした取組が県内の他の公園を整備する際の参考となるよう、市町に対し情報提供や助言を行っています。また、保育所等が、多様性に配慮したインクルーシブ遊具の整備にあわせ、木陰テントやサンシェードを設置する場合に、その費用の一部を支援しています。お示しの、大型サンシェードは、日陰をつくり、熱中症予防としての一定の効果が見込まれる一方、設置する場合の経費が高額となるなど課題もあり、子どもたちの遊びの環境づくりは、現状では、それぞれの施設に応じて、とり得る暑さリスクの軽減策を進めることが必要と考えています。

このため、県では、保育所等に対して、各施設が安心安全な遊びを提供できるよう、暑い時間帯を避ける、屋外で過ごす時間を短くするほか、こまめな水分補給や通気性の良い服の着用を推奨するなど、留意事項をまとめた通知の発出などにより、指導助言を行っているところです。

県としては、今後とも、市町や関係機関と連携して、子どもたちが安心して遊べる環境づくりに取り組んでまいります。



「きららんど」の「日除け施設」

山口県議会議員

ふくだ 福田りえこ 県政レポート

Vol.
6
2026.03



福田りえこが
県政の課題を自分の目で見て、
皆様の声を聴いて、調べて、
考え、行動に移します!!

皆さまの
ご意見をお寄せ
ください!!



囃託警察犬資格審査会見学



女性議員研究交流大会
(全国都道府県議会議長会主催)



山口県警察 視閲式
山口県警察 視閲式会場



山口県教育委員会
教育功労者表彰式



県立大学生と
県議会議員による
グループワーク



高校生県議会傍聴

ご挨拶

謹啓
萌芽の候 ますますご清栄のこととお喜び申し上げます
山口県議会では 3月2日・19日の日程で3月定例会が開かれ
令和8年度当初予算案をはじめとする各議案の審査・審議が行われております
今議会において 村岡副知事からは「物価高・賃上げへの集中的な支援」
「成長と安心の好循環」に向けた取組の始動」「県政運営を支える行財政改革の着実な推進」の
3つの柱に沿って予算を編成されたという説明がありました
一般会計の総額は7,863億9,500万円(過去10年間の中でも2番目となる規模です)
県民生活に直結する施策が着実に前へ進むよう 皆様からのお声を大切にしながら
議論に臨んでまいります

山口県議会議員 福田りえこ 謹白

福田りえこ 事務所

〒745-0017 山口県周南市新町1丁目43-1 飯田ビル1F

TEL. 0834-33-9411
FAX. 0834-33-9412

E-mail: riekofukuda.office@gmail.com

令和7年
9/25 木
一般質問

映像配信



- ① 個別避難計画の作成促進に向けた市町への支援について
- ② 広域連携による道路の維持管理業務の効率化・高度化について
- ③ デスティネーションキャンペーンを活かしたふるさと納税の促進について
- ④ 女性にとって魅力ある企業の誘致について
- ⑤ 医薬品等の供給体制について



令和7年
12/3 水
一般質問

映像配信



- ① 外遊びの充実のための大型サンシェード等による日陰づくりの推進について
- ② 小児医療に係る相談支援体制の充実と小児科における付添入院の環境改善について
- ③ 政策評価へのAI活用について

もっと詳しく
Pick Up!



① 個別避難計画の作成促進に向けた市町への支援について

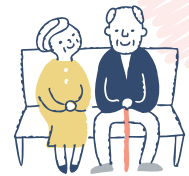
問

災害時に自力避難が難しい高齢者や障害者などの「避難行動要支援者」が円滑かつ迅速にそして安全に避難できるよう、避難場所や避難支援者、具体的な避難方法をまとめた**個別避難計画の作成が、令和3年5月の改正災害対策基本法の施行から市町村の努力義務**とされています。

しかしながら、全国的に個別避難計画の作成は十分に進んでいないのが現状で、計画作成には福祉の専門的な知識とともに本人との関係構築や地域住民・団体との調整などに多くの時間と人的資源が必要であります。

また、個別避難計画の策定を加速させるためには、防災と福祉の連携による計画策定を目指し福祉専門職の参画を促す仕組みづくりや、デジタル技術を活用した情報共有の効率化などが重要視されています。

個別避難計画の作成は、一人ひとりの命をつなぐものとして、防災意識の醸成が図られるとともに地域全体の防災力の向上につながる重要な取組であると考えます。



① 山口県全体や、県内各市町の個別避難計画の作成率の状況、② 状況を踏まえ、計画の作成促進に向けた各市町への支援について、どのように取り組まれているのか、お伺いします。

答

総務部長

災害から命を守るためには、円滑かつ迅速に避難することが必要であり、自力で避難することが困難な高齢者や障害者等が確実に避難できるよう、市町における個別避難計画の作成を促進することが重要です。**本県の作成率は14.5%と全国平均並みですが、市町ごとではばらつきが見られる状況**です。

市町の課題

- ◆ マンパワーの不足
- ◆ 防災と福祉部局間の連携・・・など



県の対応

参考となる先進事例や横展開が可能な取組等を紹介する合同研修会を開催するなど、市町の主体的な取組を伴走型で支援。

県・市町共通の被災者支援に関するシステムに、本年度から作成対象者の迅速な抽出や計画への自動入力、部局間での進捗状況の共有等を可能とする新たな機能を追加。



デジタル技術を活用した業務の効率化にも取り組む。

県はこれまで全市町を訪問し、助言や福祉専門家の派遣など支援を行ってきたところですが、今後とも避難行動要支援者を地域で支え合う仕組みづくりが進むよう、市町における個別避難計画の作成を支援し、地域全体の防災力の向上を図ってまいります。



② 広域連携による道路の維持管理業務の効率化・高度化について

問

県は、総務省の「広域連携による市町村事務の共同実施モデル構築事業」の採択を受け、周南3市と連携し、道路の維持管理業務の効率化・高度化について検討を進めています。

住民は、道路の管理者が異なることをあまり意識せず連絡するケースがあり、通報の方法としては、電話や窓口での受付、国や各市のアプリがありますが、それぞれが連携していません。

この度の取組が進めば、通報された情報が一元的に取り扱われ、対応の効率も上がり、通報者のメリットも大きくなり、また、これまでの対応等のデータが共有・蓄積され、これまで以上に効率的で迅速な対応が可能になると思います。

この取組は、地域のインフラ維持管理の効率化とともに、建設業界全体の人手不足への対応にも繋がる可能性があると考えます。

そこで、広域連携による道路の維持管理業務の効率化・高度化について、どのような効果を期待し、どのように取り組まれるのかお伺いします。



課題

- ◆ 管理主体（市・県・国）の違いがわかりにくい
- ◆ 通報先が異なった場合の対応が生じる

答

土木建築部長

県では、日々のパトロールや道路利用者からの通報等により、異状箇所の早期発見と速やかな補修を行い、道路を良好な状態に維持するよう努めています。

こうした中、道路の維持管理について、総務省の広域連携によるモデル構築事業を活用し、周南地域の3市とともに、それぞれが抱える課題を把握し、その解決を図るため、道路の異状に関する通報などの情報を一元的にデジタル化して蓄積する、新たなシステムの構築を進めているところです。

これにより、異状箇所の正確な把握など、維持管理業務の効率化が図られるとともに、蓄積した補修履歴等を分析することで、修繕計画の策定などの基礎資料としての活用が期待されます。

今後は、このモデル構築事業を着実に実施し、システムの活用方法や効果等について検証を進めるなど、広域連携による道路の維持管理業務の効率化・高度化に取り組むこととしています。

県の対応

道路の異状に関する通報などの情報を一元的にデジタル化して蓄積する**新たなシステムの構築**



② 小児医療について(相談支援体制の充実&付添入院の環境改善)

問

(1) 相談支援体制の充実について

どの地域でも小児救急を含む良質な小児医療を受けられる環境を守り続けることは、子供たち一人ひとりの命を守るために非常に重要な取組であると考えます。保護者等の不安の軽減や医療機関への適切な受診に向けて小児救急医療電話相談#8000の運用を行っていますが、さらなる認知度向上を含めた相談支援体制の充実についてお伺いします。



答

山口県知事

県民が安心して子供を産み心身ともに健康に育てられる環境づくりを進めるためには、小児医療の提供体制の整備と併せて、相談支援体制を充実させることが重要であると考えています。**夜間の急な発熱時などに看護師等が助言する小児救急医療電話相談(#8000)を運用し**、令和6年度は約1万件の相談に対応し、約7割が速やかな受診は不要と判断され、救急医療現場の支援につながったと考えています。また、**家庭での対処法をまとめたガイドブックの配布や、メール・チャットで小児科医等に相談できるオンライン相談を全県で実施し**、利用件数も増加しているところです。今後は母子手帳アプリでの周知強化などにより認知度向上を図り、市町等と緊密に連携して相談支援体制のさらなる充実に取り組んでまいります。

夜間、子どもが急な病気やけがをした際に、看護師等が症状に応じた適切な助言を行う電話相談を実施しています。医療機関を受診した方がよいかなど、お困りの際はご利用ください。

山口県にお住まいの方限定
小児救急医療電話相談

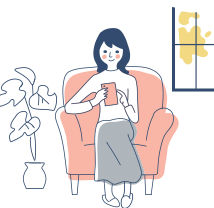
#8000

IP電話、ひかり電話など#8000を利用できない場合は 083-921-2755

③ 政策評価へのAI活用について

問

県では、政策評価にあたり、県政世論調査や県民実感度調査を実施し、施策改善や新たな政策立案へつなげていくと示されています。調査の質向上と多様な声の効果的活用のため、**SNSや窓口相談など幅広い情報をAIで分類・分析する「ブロードリスニング」**などの手法を活用すれば、潜在的課題の把握や作業負担の軽減、KPI見直しにもつながると思います。対象分野拡大に伴い意見量の増加が見込まれる中、政策評価をさらに高度化・深化させる手法としてのAI活用についてどのようにお考えでしょうか。



答

総合企画部長

政策評価は、様々なプロジェクトの進捗状況や課題を把握し、その結果を施策の改善や見直しにつなげ、県民の視点に立った行政サービスの向上を図ることを目的としており、その実施にあたっては県民の多様な意見を的確に把握し、分析する必要があります。

県では従来の世論調査に加え、SNSを活用した県民実感度調査を実施し、生成AIを用いて意見の効率的な集計・分析を行っているところです。AIによるブロードリスニングは潜在的課題の把握に有効とされる一方、属性不明や意見の偏り、誤情報の反映といった課題もあると考えます。県としては、技術の進展や他の自治体の取組状況等も考慮しながら、本県の政策評価におけるAIのさらなる活用について検討を進めてまいります。

